

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

125 日本のカードゲーム (2022年8月25日)

パリに隣接するイッシー=レ=ムリノーには、フランスで唯一のカードを専門とするカードゲーム博物館があります。この博物館は、世界各国の貴重なカードゲーム用のカードのコレクションを所蔵しており、日本のカードも展示されています。

私が博物館を訪れたときには、以前にご紹介した百人一首(※)のほか、貝覆(かいおい)が展示されていました。貝覆とは、一对の蛤の貝殻の内側に、金銀を使って美しい絵が描かれたものです。蛤は、二つとして同じ形のものはありません。日本では、12世紀末頃から貴族の間で、ぴったりと合う片割れを探す「貝合わせ」という遊びが盛んに行われました。実は、貝合わせと百人一首には、共通点があります。



百人一首に使われるカルタは、二枚のカルタを合わせると一つの和歌になります。二枚のカルタを組み合わせる遊び方は、貝合わせの流れを汲むものです。専門家によると、マッチング・カード・ゲームが多いのは、他の国では見られない日本の特徴です。ちなみに、カルタとは、ポルトガル語の carta (フランス語の carte) が語源とされています。16世紀に渡来したポルトガル人が、カード遊びを日本にもたらしました。ポルトガルからもたらされた carta の影響を受け、紙製で和歌や絵が描かれた美しいカルタが作られるようになり、日本古来から貴族の遊びであった貝合わせは、百人一首に代表される歌カルタに発展していきました。



この博物館で、もう一つ珍しい日本のカードを見つけました。任天堂が製造した株札(かぶふだ)です。カルタから発展して、48枚の札を使う花札という遊びができました。私はこの博物館で、初めて株札を目にしました。株札は、花札に似た遊びだそうです。現在は、



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

コンピューターゲームの開発や製造をする会社として世界的に名の知れる任天堂は、19世紀末に花札を作る会社として創業しました。実は、任天堂は現在でも花札やトランプを製造しています。

最後に、日本のものではありませんが、懐かしさを感じたものが展示されていました。フランスのグリモー社製のトランプです。一定の年齢層以上の日本人には、見慣れたデザインのトランプです。かつて日本で販売されていたトランプは、グリモー社製のトランプと同じデザインだったからです。任天堂で長くトランプ製造に携われた方のインタビュー記事によると、正確な理由は分からないものの、外国製のトランプを参考にして任天堂が日本で最初にトランプを販売し、



他社がそれを真似したために、日本で販売されたトランプは基本的に同じデザインになったのではないかと述べられていました。日本で最初にトランプを作った人が、フランスから輸入されたトランプを参考にしたかもしれないと想像すると、また一つ、日本とフランスのつながりを発見したような気持ちになりました。

イッシー=レ=ムリノー市は、千葉県市川市と2012年にパートナーシップを結びました。「ICT 施策」、「花と緑の街施策」、「文化・芸術」といった特定の分野において、交流が進められています。イッシー=レ=ムリノーには、市川日本庭園（Jardin japonais d' Ichikawa）と名付けられた日本庭園があります。



※ 105 小倉百人一首

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100324873.pdf>